

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200230		
法人名	株式会社 倉敷夢工房		
事業所名	グループホーム 福島の里 (あさひ)		
所在地	岡山県倉敷市福島437番地		
自己評価作成日	平成22年2月4日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3390200230&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成22年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方はホームを中心に日常生活を送っていただいているが、日々の生活の中でも非日常的な生活を感じていただけるように、ホーム内で催す季節ごとの行事他に、毎月外食やドライブ会、小学校の運動会、博物館、映画館に外出することに取り組んでいます。また、学校行事でホームを訪問してくれた小学生の子供さんたちが行事だけでなく、普段の日の放課後に何人かのグループでふらっと「遊びに来たよ」と立ち寄ってくださったり、入居者の方と子供たちの笑い声がにぎやかに聞こえてくる日も見られるようになりました。最近では地域とのつながりを持つ取り組みの一環として、月1回ですが、近隣の小学校の登校時間に通学路で入居者の方とスタッフとであいさつ運動を実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

倉敷市福島地域の昔ながらの家並みや熊野神社がある風景から少し脱出すると、新住宅団地に急変する。そこにホームがあり、前に小学校がある。この地域は車があまり通らない絶好の散歩道である。日常は近距離から遠距離の中で適当なコースを選択して利用者はよく散歩する。その他にドライブしたり外食も楽しみで個別対応を楽しんでいる。外出等は非日常的な生活であるが、ホームでの日常生活とバランス良く組み合わせ、メリハリのある生活をして、ここに住んで良かったと利用者が何時でも言えるホームを目指している。社長は人生哲学に造詣が深いが、職員一人ずつと面接し、職員の成長を楽しみにしているようだ。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「誠実・勤勉・感謝」の心を常に持って利用者と向き合い、サービスの提供を行うように各ユニットに掲示している。また、代表者からスタッフへこの理念の共有、実践をしていくように定期的なミーティングを行っている。	理念は人としての基本的な在り方を示していると考え、利用者に対してだけでなく日常生活全体でそうありたいと思っている。管理者は日頃のケアを通じてその時々々の気付きを職員に伝え、共有と実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の幼稚園や小学校の行事に参加、毎月のあいさつ運動を実施している。また、ホームの菜園で収穫した野菜を近所の方へおすそ分けしたり、地域とのつながりをもてるように取り組んでいる。	代表者が近隣在住なので、ホームの存在は地域によく認識されていて、散歩に出て畑の花が綺麗だと言うと「持ってお帰り」と応じてくれる等、自然な交流が来ている。庭に出て田圃で仕事する人とよくお喋りすると教えてくれる利用者も居た。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議へ地区の代表の方に参加していただき、ホームの提供サービスの内容を報告したり、認知症の方への理解を深めていただけるようにしている。また、個別でのご相談にも対応している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの事業内容報告だけでなく、参加者の方から情報や意見、要望等を参考にサービス向上につなげている。	町内会長・民生委員・利用者・家族・地域包括支援センター職員・同業他事業所管理者・地域住民等が出席して2ヶ月に1回運営推進会議を実施している。地域行事紹介を受ける等、会議開催効果も上がっている。	ホームの運営推進会議には、多くの同業他事業者がメンバーとして出席し、互いに情報交換してスキルアップを図っている。今後は行事交流を図りたいと聞いた。意欲的な取り組みに期待している。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に運営推進会議に毎回出席していただき、サービスの現状を知っていただくことと、またホームが抱えている諸問題について相談、協議を行う等で協力体制を築いている。	何かあればその都度市町村担当者に相談し、指導・助言を受けている。包括支援センター職員は運営推進会議に出席があり相互理解を深めているが、市町村担当者の参加はないので、今後は市町村にも出席をお願いしようと考えている。	ホームは市町村担当者の運営推進会議参加依頼を検討しているので、市町村も是非これに添えて、サービスの現状を知り、共により良いサービスを目指して連携を深めていって欲しい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不定期ではあるが、勉強会を行い、身体拘束について全スタッフが理解を深めるように努めている。	身体拘束をしないケアの実践をホームの契約条項に明記し、言葉による拘束や虐待・利用者の自由な動きを妨げる目に見えない拘束についても職員によく話し、日々のケアの中でその都度具体的に伝えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等でスタッフの理解を深めると共に、不定期ではあるが、勉強会を行い、高齢者虐待について全スタッフが理解を深めるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を実際に利用している利用者もおられ、利用に際しての問題等は市及び専門家へ相談・助言を得るようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約に際しては、契約書・重要事項説明書・その他付随文書を説明、交付して、十分な理解と納得をしていただけるようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とスタッフが話しやすい、信頼関係を築けるように努めている。またご家族へのご利用者近況報告書や面会の際に、サービスに対するご要望をお伺いしている。	担当職員が近況を伝える個別の便りに写真を添えて送付し、必要に応じて電話で相談して、面会に来た家族ともよく話し合っている。運営推進会議に家族も出席しているのので、公の発言の場も提供出来ている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な全職員でのミーティングやユニット会議にて意見・提案を出していく機会を設けている。	毎月の会議には、余程の事が無い限り全職員が出席して活発に意見交換出来ている。代表者は現場の声に耳を傾け検討してくれている。職員達はチームワークも良く、明るく活気があった。	職員は安定し落ち着きを見せて各自がスキルアップの意識を高めてきている。介護職の基本のスキルは“感性と愛情”だと思う。感受性と感覚力を高める努力もして欲しい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回、代表者が全職員に対して個別面談を行う機会を設けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修及び勉強会にてスタッフの資質向上を図っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に参加して情報交換を行い、それを参考に当ホームでのサービスの質の向上を図ることに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の基礎情報を基に、ご本人としっかり向き合っ、信頼関係を築くように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族よりお伺いした不安や要望をサービス内容に取り入れ、また、ご家族の要望に応じて入居してからしばらくのご様子をこまめに報告を行うことで安心して利用していたできるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談時にご本人・ご家族と面談を行った上で、必要な支援を見極め、当ホーム以外でのサービス利用を含めて対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者ひとりひとりの個性や能力を生かして役割作りや生きがいを持って生活ができるように支援している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告書や面会時での情報交換や、またホームでの行事をつうじてご利用者ご本人とご家族のふれあいの場を提供できるように努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出の機会を持ち、また思い出の場所等へ出かけていける支援体制を作っている。	近隣出身の利用者が多いので、買物や地域行事に出掛けると、顔見知りになり声掛けられ話が弾む。友人や知人の面会もある。書道や生け花・茶道等、本人がこれまでしてきた事を支援し発揮出来る場を設けている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性を考慮して、個々のご利用者が安心して暮らせる場所作りと共に、スタッフがご利用者間の人間関係の調整に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族からの相談に応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフはご利用者の自己決定の重要性を理解し、ご利用者との日々の関わりの中で、言葉だけでなく、言葉にはないご本人の思いや希望も汲み取り、それをホームでの生活に反映させていくようにしている。	「おかずも美味しい時とそうじゃない時がある。私厚かましいからはっきり言うてあげるんじゃ、今日のはまあまあ」花を活けるかと聞かれ「今日はやめとく」利用者が自分の気持ちをストレートに述べる場面をあちこちで見かけた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご本人、ご家族の面談で、生活歴等の情報の収集し、入居後にも得られた情報を整理してスタッフが共有、活用している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状態の記録を行い、心身の状態の変化を把握し、その情報をスタッフが共有していくようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的及びご本人の状態に応じて介護計画の作成・見直しを行う。、その際、介護スタッフと計画作成担当者がカンファレンスを行い、ご本人やご家族の意向・要望を取り入れるようにしている。	管理者と計画作成担当者が本人・家族からよく話を聞いて、職員に情報を伝え介護計画を作成し、全員で検証している。介護日誌の様式を工夫し、毎日モニタリングしてプランに反映していた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状態の記録を基に、スタッフはご利用者の状態の把握と情報の共有を行い、実際の生活援助のための方針や手技を決定、実践、見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域と交流が深い法人代表者も率先して、社会生活に参加することで、社会から隔絶した生活を送ることがないように人や文化にふれる機会を持つことに取り組んでいる。またその都度のニーズに応じて柔軟に対応していけるようしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校の夏祭りや運動会に参加したり、近隣の理容店を利用させてもらう等、ご利用者の生活を潤いのあるものとなるように援助していただいている。また、万が一の離脱事故に備え、町内会や警察にも協力を得れるようお願いしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続的かつ安心して医療を受けていただけるように、協力医療機関やその他専門診療科医療機関と連携を図り、主治医やその他専門診療科についてはご本人・ご家族に希望を確認している。	特別な検査等、必要に応じて家族に同行をお願いする時もあるが、基本的に受診介助はホームで行っているため、それぞれの掛かりつけ医との関係も構築出来ている。何かあれば対応して貰えるホームの協力医も確保している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師に日常生活の様子や体調の変化等を報告し、助言・指導等を受けて健康管理を行っている。また必要時には看護師の指示及び医師との連携がとれる体制をとっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に対し、適切な治療を受けられるように細かな情報を提供している。また入院中は定期的に医療機関へ訪問し、治療状況の把握に努め、関係者やご家族と連絡を密にして迅速な退院の受け入れができるように努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に重度化及び終末期に関して基本的な方針を書面にて説明している。その上で、ご利用者のその時の状況によりご本人・ご家族・その他関係機関と協議を行いながら、適切なサービス、その他支援を行っている。	該当するケースがなかったため、現時点ではターミナル支援の経験はないが、本人・家族の強い希望があり、医療的な問題もなく、主治医や家族の協力を得られて、ハード面での対応も可能ならば、職員とよく相談して出来る限りの対応をしたいと考えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを整備し、新入社員には研修期間にその対応を指導している。また、ミーティング等で急変時や自己発生時の対応について再確認、見直しを行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災を想定しての避難・消火・通報訓練を実施している。また運営推進会議にて災害時におけるホームの現状を報告し、地域との相互協力体制を整えられるように取り組んでいる。	近所の人にも避難訓練実施の声掛けをして、利用者も参加し、昼と夜を想定した避難訓練を行った。運営推進会議での訓練報告の際には、ホーム単独では対応に限界があるので協力もお願いした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に配慮が必要な排泄に関しては、ご本人に聴こえる程度で声掛けを行うこと、またプライバシーやご本人の人格に関わる対応を行う場合には、居室やその他プライベートスペースにて行うようにしている。	「酢飯はもっと手前に置いて、巻いたらそこでコンコンたたかにか」節分の巻きずし作りでは利用者の指示が飛び交い、職員は年長者に平伏する。プライドの高い人等、その人に合った声かけに配慮しよう」と何時も話し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者と信頼関係、馴染みの関係を築くことで、日常生活での希望や意見を表していただけるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を尊重し、できることやしたいことを自分の力で行えるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に決定してもらうように働きかけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片づけをスタッフとご利用者で協働で行っている。また、決まった献立はあるが、個々の好みに合わせて別献立で対応している。音楽で雰囲気を作り、会話を楽しみながら食事をしていただけるようにしている。	業者委託した献立や食材に、ホームの畑で収穫した野菜等もプラスしてホーム独自にアレンジし、キザミやトロミ等、食べ易い様、その人に合わせて調理した食事を、介助の必要な人の傍には職員が付いて、皆で談笑しながら食べていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて食事量を調整している。水分摂取は1日の摂取量の確認を行い、無理なく飲めるようにご本人の嗜好に合わせて提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、声掛け、介助等にて実施していただくようにしている。また義歯の管理についても個々の状態に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で困難な方も、適切な時間にトイレにお誘いして、できるだけトイレでの排泄が行えるようにしている。	各自の排泄パターンを把握し、タイミングを見てさり気無く声を掛け、トイレ誘導出来ていた。身体能力が低下して困難になっても対策を職員間で相談し、出来る限りトイレでの排泄を心掛けている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の日課として、体操や散歩等の適度な運動をしていただけるように取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望や気分に合わせて入浴日を設定する等、意思を尊重している。また入浴時はひとりひとりに合った声掛けや会話とおして入浴が楽しめるように支援している。	本人の希望に合わせて、何時でも入浴したい時に利用して頂くのを基本対応としている。入浴拒否の場合は無理強いせず、タイミングをずらせて声を掛ける等して、週2回は入浴して貰う様誘っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は一律とせず、テレビを見たり、読書をしたり等、個々の就寝前の時間を過ごしていただいて気持ちよく安眠できるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方・効能・副作用等の一覧表を個人別にファイリングして、常に確認できるようにしている。服薬マニュアルを作りスタッフに徹底している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの個性を大切にしながら、それらを活かした役割や楽しみづくりを支援している。また、外出や外食等で好きな物を食べたり、ホーム以外での時間を過ごしてもらうことで気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や行きたい場所への外出等、できる限り実現できるように、行事の計画を立てたり、人員を確保する体制を整えている。	恵まれた立地条件を生かして、体調や気分に合わせてコースを日常的によく散歩している。手厚い職員配置を行い、花見や初詣等、季節の行楽以外にその日その時その気になったドライブや外出等にも出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご本人・ご家族と金銭管理について相談、取り決めをしている。自己管理をされている方もおられ、買い物に時にご本人が財布を持ち、好きなものを買われています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その都度、ご本人の希望に応じて、ホームの電話を使用したりしていただいている。また、手紙や年賀状をご家族や知人に宛てて書かれている方もおられるので必要な支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝の清掃や環境整備を行い、清潔な環境で居心地よく過ごしていただけるように配慮している。また、季節を感じていただけるような雰囲気作りを行っている。	季節の花や和風民芸調の飾りを配し、親しみやすい雰囲気が漂っている。食卓以外にテレビ前の長ソファや畳の間等、居場所も多い。窓からは隣接する小学校の運動場で遊ぶ子供達がよく見えて、子供好きには嬉しい。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳間にて気の合うご利用者同士でつるぎるように配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ひとりひとりの生活暦や環境を大切に、自宅で使用していた小物等を持参されたり、好みの飾り付けをしていただき、自宅と同じようにその人らしく過ごしていただけるようにしている。	特技の書道作品や写真等を飾る人や、タンス・イス・テレビ等を持ち込む人も居て、その人らしい居室になっていた。窓からの眺めもよく、明るい感じがする。自分の部屋が好きで、用事のない時は居室で過ごす人もいた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレを分かりやすく目印をしたり、移動の障害とならないよう居室その他のホーム内の環境整備を行う等、ご利用者の状態に応じて安全・安心に生活できるように配慮している。		